

アクセス状況・コースタイム・危険度・城跡のポイント確認など調査しました。関ヶ原の合戦の舞台に立ち、歴史ロマンに思いを馳せましょう。大久保のセツブンソウを見に行きましたが、まだ雪が多く花は見られませんでした。でも、せっかくだから、セツブンソウのお花を見に寄ってみましょう。皆さまのご参加をお待ちしています。

◆下見状況 1. 菩提山ハイキング







## 2. 竹中氏陣屋跡

### 竹中氏陣屋跡及び櫓門

（戦国史実跡 昭和三十一年三月二十八日指定）

竹中半兵衛重治公没後嫡男の重門が菩提山城を廢して構えた陣屋  
 「竹中家譜」菩提山々感を下り、岩手作船屋之の正門である。  
 遺蹟が正屋で、大平の開口六間、奥行き三間本造の白壁塗りの櫓門  
 となっている。

門の西側に千六百二十六坪にわたる陣屋が形成されていた。（寛  
 正四十一年五尺、北邊二十七間半、西邊三十六間一尺、南邊四十二間  
 一尺）菩提山々感の復元複製を下記下さい。

岩手県は明治新政府による学制発布により明治十四年に現在の岩  
 手小学校の前身である「菩提山校」の正門として位置づけられてき  
 ました。（「菩提」とは中国最古の「詩經」より「有徳な人村を産成す  
 るの意」）

明治新政府の「専府建造物破壊令」に押し高橋繁八郎氏等が「櫓  
 門は菩提山学校の正門である」と主張し、地元の文化財としての存続に努  
 められ現在に至る。城「陣屋」の門が学校の門になっている学校は  
 全国でも極めて稀で貴重な史跡となっている。

#### 竹中家本邸古図

（竹中重治陣屋）



竹中半兵衛重治  
 （一五四四年〜一五七九年）

重治公はこの地の菩提山城を  
 本拠とし、智謀神の如しといわれ  
 た名軍師で、木下藤吉郎に三顧の  
 礼をもつて迎えられた。信長に仕  
 え、秀吉の懐刀となり、形影相伴つ  
 て各地を転戦し、知恵袋として活  
 躍した無欲の武将であった。播州  
 三木城攻略中惜しくも三十六才の  
 若さで陣没した。墓はここより  
 北五百mの樺権寺にある。

垂井町

## 3. 笹尾山

### 関ヶ原合戦のあらまし

西暦1600年（徳川家康五十五歳）現在の岐阜県岐阜市に居る徳川家康は、豊臣氏と戦う。豊臣氏もまた、徳川氏と戦う。この戦いは、徳川氏の大勝利となり、徳川氏による幕府の成立を決定づけた。この戦いは、徳川氏の大勝利となり、徳川氏による幕府の成立を決定づけた。この戦いは、徳川氏の大勝利となり、徳川氏による幕府の成立を決定づけた。

### 島左近陣地 Shima Sakon's Encampment

しま さ こん

島左近（清興）は、「治部少（石田三成）に過ぎたるものが二つあり、島の左近と佐和山の城」と謳われたほどの智将で、三成は自らの俸禄の半分を与えたとの逸話が残る。

関ヶ原の戦い前日には、杭瀬川の戦いで東軍の中村一栄らの軍勢を破った。

当日はここ笹尾山に布陣し、攻め寄せる黒田長政や細川忠興ら東軍を幾度も押し返す活躍を見せたが、長政の家臣、雷六之助（菅正利）の射撃で負傷し、奮戦の末、討ち死にしたとも、戦場を脱したともいわれる。これを機に、普戦していた石田隊は徐々に押し込まれていった。



#### 4. 岡山烽火場（おかやまのろしば）

岡山烽火場

黒田長政・竹中重門陣跡

Okayama Signaling Ground

岡山烽火場

카야마 봉화장



岡山は丸山とも通称される標高164メートルの丘で、松尾山・笹尾山・東山道(中山道)・北国街道等が一望でき、戦いの最中も状況がよく把握されたであろう場所である。戦い当日の朝、黒田長政と竹中重門の約5千は東軍の最右翼としてここに布陣した。重門は当時、岡ヶ原一帯を領していたので、地の利を活かしたものと推測される。

重門は、はじめ西軍に引していたが、岐阜城落城後、井伊直政の仲介により東軍へ転じた。また、南宮山の吉川広家、松尾山の小早川秀政は、長政によって既に討ち取られていた。

午前8時頃に開始すると攻撃の合図の烽火を上げ、細川

赤間・加藤嘉明・金森長近らとともに笹尾山の石田三成を攻撃したが、三成の家臣・島左近(清興)の奮戦により幾度も押し返される。長政は戦況を打破すべく、一隙を期して笹尾山北側へ迂回させ、石田隊を側面からも攻撃した。この策は功を奏し、左近は長政の家臣・菅六之助の銃撃で負傷したとされる。

一進一退の攻防が続く中、正午頃に秀秋らが裏返り戦況は一気に好転。西軍部隊は総崩れとなって敗走する。黒田隊は東軍部隊とともに、なおも踏み止まっていた石田隊に最後の猛攻を仕掛けてこれを殲滅させ、ついに勝算を決した。

## 金刀比羅神社

鎮座地 岡ヶ原町字岡山  
御祭神 大物主神  
御祭神の系譜

大物主神 異名 大國主命・大穴牟遲神など多数  
父は天之冬夜神、母は劍國若比売、子は事代主神、建御名彥神など

年中行事 例祭 三月二十五日

御創建の由来

慶長五年(一六〇〇年)九月十五日の岡ヶ原合戦のとき、徳川軍に加わった讃岐の領主生駒一政公は、黒田長政公や竹中重門公と共に東軍の最右翼軍としてこの岡山の地に陣を構えた。このとき一政公は、捧持してきた金刀比羅宮(香川県琴平町)の祭神大物主神の御神像を松の枝にかけ戦勝を祈念した。合戦後、村人はこの御神像をもらい受け、祭祀したと伝えられる。また慶応の時代、岡ヶ原の庄屋古山一八が当神社の社殿等を改築したとも伝えられる。その後、商売の神様として岡ヶ原村全体の崇敬を受け、金刀比羅講(俗称 金毘羅講)が組織され、毎年十月十日、讃岐の本宮に代表者を派遣して神符を奉戴していた。(現在は行われていない)また、社殿等は、大正八年(一九一九年)の遷宮により現在地に移されたといわれる。